

調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月 25日

瀬戸市議会議長 様

議員名 宮菌伸仁



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

| | | |
|--|--|----------|
| 期 日 | 令和 元年 11月 ⁶ 7日から 11月8日まで (去泊 ^{2泊} 2日) | |
| 調査先・研修名 | 第 81 回全国都市問題会議 | |
| 会場名 (会場所在地) | 鹿児島県霧島市国分清水 309 霧島市国分体育館 | |
| 調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて) | 今回は、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を見るとともに、市長及び学識経験者の皆様の経験や研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通して、「防災とコミュニティ」について学び、各都市が抱える共通した課題の解決手段を習得する。 | |
| 議長名の依頼 | 要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要 | 依頼先 (名称) |
| | | |
| 同行者名 | 山田治義・富田宗一・ 本沢勝 ・西本潤・長江公夫・三木雪実 戸田由久・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・ 水野良一 12 名 (本人含む) | |

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 元 年 1 1 月 1 8 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 宮菌伸仁



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

| | |
|--|--|
| 期 日 | 令和 元年 1 1 月 ⁶ 7 日から 1 1 月 8 日まで (² 1泊 ³ 2日) |
| 調査先・研修名 | 第 81 回全国都市問題会議 |
| 会場名(会場所在地) | 鹿児島県霧島市国分清水 309 霧島市国分体育館 |
| 調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて) | 今回は、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を見るとともに、市長及び学識経験者の皆様の経験や研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通して、「防災とコミュニティ」について学び、各都市が抱える共通した課題の解決手段を習得する。 |
| 調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等 | |
| 防災とコミュニティ 1、災害時には、それまで顕在化していなかった課題が顕在化することがある。 2、顕在化した課題は多岐亘り、それぞれが関連しあう。 3、災害時のレジデンスを高めるには、事前の防災に関する取り組みは、まちづくりや福祉的な活動を含めた様々な活動に日常的に取り組むことを通じて多様な主体が多層的なネットワークを築いていくことが有効である。 4、「コミュニティ・レジリエンス」、「地域レジリエンス」を高め、地域コミュニティが緊急時に共助の役割を継続して果たすことにつながる。 5、住民一人ひとりによる「自助」を基本としつつ、地域住民やボランティア、企業等が協力して取り組む「共助」が相互に機能する。 | |

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

行政においては地域、住民取り組みへの支援は、社会を中心とした防災への取り組みを強化していく。

- 6、公・共・私による協働、すなわち防災ガバナンスの構築がレジリエンスを高めるカギになる。
- 7、歴史資料・記録書の保存は公文書として保存する必要がある。
- 8、コミュニティの力は、ハードの効果をソフトで高め、コミュニティの力で未来をつないでいく。

調査・研修の成果・考察

（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

- 1、防災に関しては政府に頼るのではなく、それぞれの自治体が答えを出す必要がある。
- 2、地域継続の担い手を中心とした伴奏機能の継続が必要でありDCPを通じて走者目線で機能継続対策を検討する必要がある。
- 3、市民の生命・身体・財産を守ることが自治体の最大の使命である。